

第11回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会記録

日 時：平成6年1月29日

場 所：厚生連高岡病院
地域医療研修室

第11回の研究発表会は、平成6年1月29日、厚生連高岡病院にて、発表演題11題、参加約70名でおこなわれ、活発な討論がおこなわれました。

なお、発表演題名は下記の通りです。

〈プログラム〉

1. 開会の挨拶 (13:30~13:45)

2. 会員発表 (13:45~16:30)

(時間10分, 討論5分)

座長 富山市民病院院長 石田礼二 (13:45~14:45)

1. 人間ドックにおける血清脂質と食習慣の関連について

厚生連滑川総合検診センター ○岸 宏栄 小川忠邦 川口京子 松井規子 保井陽子
早崎智美 上田孝子 川岸智美 砂田誠一郎 谷川秀明
大浦栄次

2. 継続受診者の高脂血症の経過から保健相談をふりかえる

厚生連高岡総合検診センター ○佐竹千佳子 渋谷直美 森内尋子 小林昭子 高田久子
坂次順子 坂本文枝

3. 血中インスリン値と各種関連因子との関係について

厚生連滑川総合検診センター ○小川忠邦 川口京子 松井規子 岸 宏栄 保井陽子
早崎智美 上田孝子 砂田誠一郎 谷川秀明 大浦栄次

4. 食生活スタイルと健康影響

ケアホーム陽風の里 ○渡辺正男
富山女子短期大学 桑守豊美

座長 前富山医科薬科大学教授 渡辺正男

5. 農業機械による手の外傷の治療 —最近の症例から—

厚生連高岡病院形成外科 ○長谷田泰男 野町重昭

6. 利賀村におけるスギRAST成績

厚生連高岡病院耳鼻咽喉科 ○豊田 務
富山県農村医学研究会 大浦栄次

7. 富山県の空中花粉調査 —スギ科花粉の地域性と年次変化について—

富山医科薬科大学公衆衛生 ○寺西秀豊 劔田幸子 加藤輝隆 加須屋実
富山県農村医学研究会 大浦栄次

<特別発言> 老化とその対応

富山県農村医学研究会 会長 越山健二

座長 厚生連高岡病院第2内科診療部長待遇 亀谷富夫

8. 在宅療養患者QOL向上を目指して

—多発性脳梗塞に痴呆をきたした患者の訪問看護を通しての一考察—

厚生連高岡病院看護部 ○吉田実千子 堂前倫子 森田久子 西山明美 矢後久美
藤巻一美

9. 高齢者の一過性精神障害の発症因子を検討する。

—パンフレットを作成し家族指導を試みて—

厚生連高岡病院看護部 ○三井智恵 藤木美希 浦喜代美 笹島由起恵

10. 糖尿病教育入院患者の退院後のコントロール状況について

厚生連高岡病院看護部 ○盤若由美 黒田智子 牧野富美子 盛野愛子
山下国子 野崎啓子

3. 閉 会 (16:30)

第 24 回 通 常 総 会 記 録

日 時 平成 5 年 6 月 5 日 午後 1 時 30 分～
場 所 富 山 県 農 協 会 館

I. 総会議事の概要

会 員 総 数 271 名 うち出席者 99 名 委任状 139 名

会 長 挨拶 越山健二

議 長 選 出 厚生連本所 清水忠夫

議事録署名人 富山市 柳井道之
滑川市 石倉俊宜

書 記 橋本賢治 高木 茂

議 事

第 1 号議案 平成 4 年度事業報告書, 財産目録, 収支決算報告承認について

第 2 号議案 平成 5 年度事業計画及び収支予算承認について

第 3 号議案 役員の変更について

第 4 号議案 顧問の承認について

特 別 講 演 佐久総合病院院長 若 月 俊 一

演 題 「これからの保健, 医療, 福祉」

II. 平成 4 年度事業報告書

(平成 4 年 4 月 1 日～平成 5 年 3 月 31 日)

I. 事業の概況

平成 4 年度事業の終了に当たり, 事業の概況について報告致します。

有史以来続いた日本の水田稲作農業は, 日本の自然環境を保全し, 豊かな日本文化を築いてきました。しかし, 現在, 米の輸入自由化論議が盛んに行なわれており, ウルグアイラウンド交渉の結果如何によっては, 日本の農業, 農村は根本的に変貌を強いられる可能性もあります。

この日本農業と農村を守ることは, 単に食糧を確保するのみならず, 輸入食品の増大に伴い問題となっている食の安全性を確保する上で重要であります。また, 農村社会が築いてきた助け合いの精神を保持し, 高齢化社会に対応する上でも重要なことと考えられます。

本会では, 健康で豊かな農村を築くため, 以上の課題解決のために会員のみなさんと共に, 調査研究を続けてまいりました。

昭和 45 年より続けております農業機械災害事故調査, また, 昭和 55 年より実施しております農業機械以外による農業災害事故調査について, 今年度も実施してきました。

農薬中毒の臨床例調査は昭和 55 年より続けております。過去 5 年間の詳細報告症例は 90 例であり,

自殺、散布中の症例が多く、農薬の取扱いの注意、保管管理の徹底が必要と考えられました。

これらの農業災害事故調査、農薬中毒調査は、日本国内では例がなく、関係機関から貴重な調査として注目されております。この農業災害事故調査並びに農薬中毒調査は、中国河南省においても富山県農村医学研究会の調査方法に基づき調査が始まっております。これらの調査は中国始まって以来のものとなっています。

省力化と環境にやさしい農薬散布方法といわれるラジコンヘリによる農薬散布者の健康調査も実施してまいりました。その結果、有機リン剤散布後1カ月後にも有機リン剤の代謝物が尿中に検出され、昨年にも指摘した通り、有機リン剤の体内残留が考えられ、今後生体試料による確認が必要と考えられます。

農業機械による騒音暴露量の調査では、草刈機等小型エンジンを搭載している機械ほど騒音レベルが高く、農業機械による騒音性難聴を惹起される可能性が考えられ、防護の徹底が必要と考えられました。

その他、富山県内の空中花粉調査も農協組織等と協力し継続的に実施しております。

農村における健康状態の把握に関する調査研究も引き続き実施しております。高岡、滑川の農村検診センターにおける健康調査、各地におけるみそ汁塩分調査と保健調査等、農村における健康状態の解明のための調査研究を行ってきました。

なお、以上の課題のうち農薬中毒に関する調査は厚生科学研究の一部としても実施しました。

これらの研究成果は、秋田市で開催された第41回日本農村医学会、第10回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会等、各種学会や本会会誌等で発表しています。

以上、本会の活動は医療関係者をはじめ行政、農協、及び農村の健康問題に関心のあるあらゆる方々の協力により実施されてまいりました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでまいりたいと思っておりますので、会員各位の絶大なるご協力をお願い致します。

最後に、県当局、農協各連より絶大なるご援助をいただいておりますことに対して厚くお礼申し上げます。

II. 主な事業項目の概要

I. 第23回総会（平成4年6月20日、富山県農協会館）

- ① 議 事
 - ・平成3年度事業報告、収支決算承認
 - ・平成4年度事業計画、収支予算案承認
 - ・役員の一部改選について、顧問の一部変更承認について
- ② 特別講演
 - 講 師 富山県農村医学研究会 会長 越 山 健 二
 - 演 題 「私の歩んだ地域医療」

II. 研究調査活動

(1) 農業災害に関する調査研究

①富山県における農業機械災害事故調査

昭和45年より実施している農業機械災害事故調査を県内全ての整形外科、外科、接骨院750カ所余りを対象に実施した。本年度もこれまでと同様一次調査として災害事故例の有無について調査し、「症例有り」との回答があった医療機関に詳細報告を求めた。一次調査は前期

(1～8月)、後期(9～12月)と2度実施した。

② 富山県における農業機械以外の農業災害事故調査

昭和55年より行なっている標記調査について、前項と同様一次調査、詳細調査を行なった。

その結果、例年通り、受傷年令は高齢者が多く、かつ重いものをもっての挫傷等が多かった。今後、農業従事者の高齢化が進につれ、さらに問題となると考えられ、作業改善や集団営農等による共同作業等により、身体負荷の軽減方策について検討することが必要と考えられた。

③ 農業機械災害事故のケーススタディー

入善町で発生した農業機械災害事故について、受傷者に直接面談して受傷時の状況や救急医療体制等について調査をした。その結果、統計調査では得られない貴重な体験が明らかになった。今後の事故対策は、これらの受傷体験を明らかにし、機械の改善、体制の整備等が必要と考えられた。

(2) 農薬中毒に関する調査研究

① 富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解明

昭和55年より県内の内科、外科、小児科、眼科、皮膚科を標榜する約650カ所の医療機関全てを対象に農薬中毒の臨床例の有無を調査してきた。本年度も同様の方法にて一次調査として、農薬中毒臨床例の有無の調査を行い、「症例有り」と回答のあった医療機関に詳細報告を求めた。なお、一次調査は前期(1～8月対象)と後期(9～12月対象)の2回実施した。

② ラジコンヘリによる農薬散布者の健康調査並びに尿中代謝物の排泄状況について

ラジコンヘリによる農薬散布者の健康調査を実施した。その結果、散布量に比較して生体影響は少ないと考えられた。ただし、散布期間終了後、一ヶ月目に尿中に有機リン剤の尿中代謝物が検出され、有機リン剤の体内残留が考えられた。いずれにして、「低毒性」ということで無防備になりがちであった有機リン剤の散布について今後とも厳重な防護が必要と考えられた。

(3) 農村における騒音と聴力障害について

① 各種農業機械による作業時の騒音暴露量の測定

各種農業機械による作業時の騒音暴露量について調査した。その結果、小型エンジンを搭載している草刈機等において、騒音レベルが常時90 dBを超え、騒音性難聴が惹起される可能性が考えられ、防護の徹底が必要と考えられた。また、ネギの皮剥き機の騒音では、継続音であり90 dBを超える時間帯は少ないが、昨年指摘した通り、4000 Hz付近の騒音レベルが高いので防護は他の機種より徹底する必要があると考えられる。

② 各種農業機械の騒音の周波数分析

コンバイン、草刈機等の騒音について周波数分析を行なった。小型農業機械において騒音性難聴を惹起すると考えられる4000 Hz付近の騒音レベルが高く、防護の徹底が必要と考えられた。

(4) 農村における各種健康調査

① 日帰り人間ドック連続受診者の生活調査

人間ドックの5年継続受診者約500人の検診成績の推移とその生活背景の変化の関連性についてアンケート調査した。その結果、特に検診成績と明確な関連のある生活因子は、事象に様々に関連しているためか、明らかにはならなかったが、今後とも長期の継続観察が必要と考えられた。

②乳房の自己検診の実態について

③検診受診後の精密検診受診状況について

(5) 富山県における空中花粉調査

県内の農協等の協力を得て、春先の空中花粉の飛散状況調査を7ヶ所で実施した。これまで、富山県においては広域的な空中花粉の基礎資料がなく、本調査により、次第に県内の空中花粉の飛散状況が明かになりつつあり、今後花粉情報の提供、また、農村における花粉症等のアレルギー疾患の予防にも役立つと考えられる。

(6) 農村検診センターにおける検診結果と、今後の農村における保健活動の課題

農村検診センターにおける約9,000人の受診者の検診結果の分析を通じ、今後の農村における健康管理の課題について検討した。

III. 各種研究集会参加・交流並びに開催

(1) 第41回日本農村医学会

・開催日時 平成4年10月15、16日

・開催場所 秋田市

・会員発表 富山県より5題発表

- 人間ドック継続受診者における検診成績の年次推移について (小川忠邦他)
- 経尿道的前立腺摘除術を受けた患者の性機能の実態調査 (澤野博美他)
- 老人の残存機能を生かした日常生活行為の自立を考える (鳥山公代他)
- 農薬散布後の生体における農薬動態と生体影響 (大浦栄次他)
- 当科におけるイネ科花粉症症例 (山本 憲他)

(2) 第10回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会

・開催日時 平成5年2月13日(土)

・開催場所 厚生連高岡病院 地域医療研修室(1)

・会員発表 11題(参加者約70名)

(3) 中国河南省との農薬中毒・農業災害事故調査の共同研究実施合意書の締結

「中国河南省和日本富山県農薬中毒及農業傷害事故聯合調査協議書」

・場 所 中国河南省劉州市

・日 時 平成4年4月19日

・締結者 中国河南省衛生庁医政処 処庁 秦 太 錚
日本国富山県農村医学研究会 会長 越 山 健 二

IV. 印刷物の刊行

会誌第24巻の発刊

Ⅲ. 主な行事（平成4年4月1日～平成5年3月31日）

年 月 日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
4. 4. 1	空中花粉定点観測 (4. 2. 20～4/30)	井波農協, 立山町農協, 厚生連看護専門学校, 厚生連滑川病院, 高岡市立 太田小学校, 黒部農協の各 屋上
4.	日帰り人間ドック連続受診者生活調査	入善町
4. 19	中国河南省衛生庁と農薬中毒・農業災害共同 調査合意書締結	於：中国劉州市 (越山)
5. 26	平成4年度第3回理事会	厚生連会議室
6. 2	編集委員会	厚生連会議室
6. 4	山村住民の耳鼻咽喉科検診, および山村住民 の難聴調査(6/4, 18, 7/2)	利賀村(豊田, 大浦他)
6. 20	第23回総会	農協会館
7. 19	ラジコンヘリによる農薬散布者健康調査	宇奈月町
8. 5	第三回地域医療フォーラム	県庁前公園
8. 6	第14回富山県農村の健康会議	富山県農協会館
9. 1	「有機農業者の健康実態及び有機農業の生体 影響に関する研究」班会議	
9.	平成4年度前期農薬中毒実態調査 平成4年度前期農業災害事故調査	
9. 25	平成4年度第1回役員会	厚生連会議室
10. 15～16	第41回日本農村医学会	秋田市(発表5題)
5. 1	平成4年度後期農薬中毒実態調査 平成4年度後期農業災害事故調査	
2. 13	第10回富山県農村医学研究及び健康管理活動 発表集会	厚生連高岡病院 (約70名参加)
2. 27	日本農村医学会「農業災害問題特別研究」班 会議	大阪
3.	ねぎの皮剥き作業検診	高岡農村検診センター

IV. 総 会

第23回通常総会

平成4年6月20日

総会日現在会員数		267名
出席会員数	実際に出席した会員	75名
	代理議決	0名
	書面議決	145名
	計	220名
<p>重要な議事及び議決事項</p> <p>第1号議案 平成3年度事業報告書、財産目録、収支決算書承認について 原案承認</p> <p>第2号議案 平成4年度事業計画案及び収支予算案承認について 原案承認</p> <p>第3号議案 役員の一部改選について 原案承認</p> <p>第4号議案 顧問の一部変更承認について 原案承認</p> <p>※議事終了後、講演会を開催 特別講演 富山県農村医学研究会 会長 越山健二 「私の歩んだ地域医療」</p>		

財 産 目 録

(平成5年3月31日現在)

(単位：円)

内 訳	金 額	備 考
貯 金	78,486	
計	78,486	

平成4年度収支決算書

収入の部

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	差引額	備 考
会費収入	267,000	271,000	4,000	
会 費	267,000	271,000	4,000	271人×1,000円
助成金	1,800,000	1,800,000	0	
助 成 金	1,800,000	1,800,000	0	富山県より
特別負担金	4,680,000	4,680,000	0	
特 別 負 担 金	3,480,000	3,480,000	0	4連×870,000円
調査研究協力費	1,200,000	1,200,000	0	厚生連より繰入
受託料	100,000	100,000	0	
受 託 料	100,000	100,000	0	県より農機災害調査委託費
雑収入	69,568	12,397	△ 57,171	
雑 収 入	69,568	12,397	△ 57,171	利息等
前期繰越金	643,873	643,873	0	
収 入 計	7,560,441	7,507,270	△ 53,171	

支出の部

項 目	予算額	決算額	差引額	備 考
会議費	670,000	467,878	△202,122	
総 会 費	170,000	177,750	7,750	
役員会費	500,000	290,128	△209,872	
事業費	6,400,000	6,623,356	223,356	
研究調査費	3,950,000	4,190,395	240,395	各種調査研究費
専門委員会費	50,000	0	△ 50,000	” 打合せ等
研究集会費	600,000	465,896	△134,104	日本農村医学会等参加費
会誌発行費	1,300,000	1,417,990	117,990	第24巻発行費
編集委員会費	50,000	20,000	△ 30,000	
通 信 費	200,000	272,600	72,600	
消耗品費	150,000	120,000	△ 30,000	
備品・什器	100,000	136,475	36,475	
旅費交通費	200,000	57,500	△142,500	
旅 費 交 通 費	200,000	57,500	△142,500	
事務費	240,000	240,000	0	
事 務 費	240,000	240,000	0	20,000円×12ヶ月
雑 費	20,000	40,050	20,050	
雑 費	20,000	40,050	20,050	
予備費	30,441	0	△ 30,441	
予 備 費	30,441	0	△ 30,441	
支 出 計	7,560,441	7,428,784	△131,657	
次期繰越金		78,486	78,486	

平成5年度事業計画(案)

I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究
 - ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究
2. 農業災害の調査研究
 - ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する調査研究
 - ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究
3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究
 - ・農薬中毒の実態調査
 - ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
 - ・農薬の生体残留に関する調査研究
4. 健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
 - ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
 - ・農業従事者の成人病の実態調査とその対策に関する調査研究
5. 農村における社会医学的研究
 - ・農村における高齢者に関する調査研究
 - ・社会変動による農業従事者の健康に及ぼす影響についての調査研究
 - ・都市近郊農村における社会医学的研究
 - ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究
6. 農村における特殊疾患の調査研究
 - ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究
7. 農村における環境汚染と健康影響に関する調査研究
8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究
9. 農村の健康会議、健康教室等の実施
10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行
11. 研究集会の参加及び開催
12. その他目的達成に必要な事項

III. 主な事業計画

I. 主な調査研究

(1) 農業災害に関する調査研究

- ①富山県における農業機械災害事故調査
- ②富山県における農業機械以外の農業災害事故調査

- ③農業機械災害事故のケーススタディ
- ④農作業安全推進地区における安全対策確立に関する調査研究
- (2) 農薬中毒に関する調査研究
 - ①富山県における農薬中毒の臨床例の収集とその問題点の解析
 - ②農薬散布者の健康調査
 - ・農薬散布直前後の健康調査
 - ・農薬の慢性生体影響に関する調査研究
 - ③有機リン剤の体内残留に関する調査研究
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
 - ①農村地区における花粉症に関する調査研究
 - ・富山県における空中花粉の飛散状況調査（井波他6カ所）
 - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究
- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
 - ①農作業における粉塵と健康障害に関する調査研究
 - ②ハウス農家の健康調査
- (5) 農山村における騒音による聴力障害等に関する調査研究
 - ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
 - ②農山村住民の聴力損失に関する調査研究
- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査
- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
 - ①食生活と健康に関する調査研究
 - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究
- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアの確立に関する調査研究
 - ①農村における健康管理運動の確立に関する調査研究
- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
 - ①高齢者問題に対する農村住民及び医療関係者等の意識調査
 - ②在宅ケアのあり方に関する調査研究
 - ③モデル地区における高齢者対策推進に関する調査研究
- (10) その他、農村における各種保健調査、健康調査の実施
 - ①肥満、アルコール、肝疾患等の調査研究
 - ②農村における成人病に関する調査研究
 - ③その他

II. 各種研究集会参加・交流並びに開催

- (1) 学会等への参加
 - ①第42回日本農村医学会（平成5年10月、横浜市）
- (2) 第11回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会の開催
（平成6年1月29日、厚生連高岡病院）
- (3) 中国、河南省との農業災害、農薬中毒実態調査の共同研究

III. 会誌等の印刷物の発刊

- ①富山県農村医学研究会誌第25巻の発刊
- ②その他

IV. その他目的達成に必要な事業

平成5年度収支予算書（案）

収入の部

(単位：円)

項 目	金 額	備 考
会費収入	271,000	
会 費	271,000	271人×1,000円
助成金	1,800,000	
助 成 金	1,800,000	富山県より
特別負担金	4,680,000	
特 別 負 担 金	3,480,000	4連×870,000円
調査研究協力費	1,200,000	厚生連より繰入
受託料	100,000	
受 託 料	100,000	県より農機災害調査委託費
雑収入	12,397	
雑 収 入	12,397	利息等
前期繰越金	78,486	
収 入 計	6,941,883	

支出の部

項 目	金 額	備 考
会議費	700,000	
総 会 費	250,000	
役 員 会 費	450,000	
事業費	5,800,000	
研究調査費	3,350,000	各種調査研究費
専門委員会費	50,000	” 打合せ等
研究集会費	500,000	日本農村医学会等参加費
会誌発行費	1,400,000	第25巻発行費
編集委員会費	50,000	
通信費	200,000	
消耗品費	150,000	
備品・什器	100,000	
旅費交通費	150,000	
旅 費 交 通 費	150,000	
事務費	240,000	
事 務 費	240,000	20,000円×12ヶ月
雑費	20,000	
雑 費	20,000	
子備費	31,883	
子 備 費	31,883	
支 出 計	6,941,883	

役員・顧問名簿

理 事	役 職
越 山 健 二	全国国保診療施設協議会顧問
五 島 茂 樹	県医務課 課長
伊 藤 英 明	県普及指導課 課長
東 野 宗 朗	県健康課 課長
小 野 啓 安	保健所長会会長・富山保健所 所長
飯 田 恭 子	保健所長会副会長・黒部保健所 所長
石 田 礼 二	富山市民病院 院長
館 野 政 也	県立中央病院 院長
寺 中 正 昭	城端厚生病院 院長
熊 谷 武 夫	高岡市保健センター所長
黒 崎 正 夫	富山県医師会学術担当理事
中 藤 康 俊	富山大学教授
渡 辺 正 男	前富山医科薬科大学教授
長 谷 田 祐 作	元国立富山病院 院長
西 能 正 一 郎	西能病院 理事長
北 川 鉄 人	北川クリニック 院長
加 藤 正 義	厚生連高岡病院 院長
小 川 忠 邦	厚生連滑川病院 院長
豊 田 務 務	厚生連高岡病院 副院長
三 部 孝 信	富山県農協中央会 組織農政部長
林 政 一	富山県経済連生活部 部長
安 宅 清 一	富山県厚生連 参事
得 地 滋 一	富山県農協青年組織協議会 委員長
竹 部 喜 代 子	富山県農協婦人組織協議会 会長
金 山 美 寿 子	富山県農協生活指導員協議会 会長
監 事	役 職
美 川 郁 夫	厚生連高岡病院 副院長
島 田 富 士 弥	高岡市農林部長
顧 問	役 職
中 沖 豊	富山県知事
正 橋 正 一	富山県市長会 会長
	富山県町村会 会長
広 瀬 友 二	富山県医師会 会長
吉 田 哲 彦	富山県厚生部 部長
堀 田 稔	富山県農業水産部 部長
松 井 信 勝	富山県農協中央会 会長
戸 谷 徳 一	富山県信連 会長
大 角 秀 尚	富山県経済連 会長
吉 田 興 治	富山県厚生連 会長
江 西 甚 昇	富山県共済連 会長

※町村会 会長は6月10日に改選されるので、改選された時点で依頼することとする。

投 稿 規 定

募 集 原 稿 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。

投 稿 の 資 格 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。

原 稿 の 送 り 先 富山県農村医学研究会事務局宛（富山市新総曲輪 2 番 21 号富山県厚生連内）
投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

論文の原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま (Pasteur, Prostigmin 等) とし、動植物名は日本名の次に学名 (ローマ字 Moccusruslesus, 山椒藻 Salvinabatah 等) を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートル m, センチメートル cm, グラム g, キログラム kg 等。
3. コンマ (,) ピリオド (.) コロン (:) ゴシックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。
(図表は、特殊なものを除いては、出来上がり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。)
図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記 (末記) して下さい。

無 料 掲 載 原稿用紙20枚 (刷上がり5頁) までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

有 料 掲 載 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

文 献

1. 雑誌の場合 著者名、標題名 (雑誌指定の略号)、巻数 (号数)、頁一頁、発行年月 (昭和52. 5のごとく。)
2. 単行本の場合 著者名：標題名、発行所、発行地、発行年月 (必要ならば引用の箇所の頁を最後に)

印 刷 印刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

編 集 後 記

平成5年は百年に一度と言われる大凶作、並びに政府の米の備蓄政策の失敗による米の大量緊急輸入。さらに、12月14日には米の部分解放が決定され、日本の農業史上最大の転換点となりました。

とりわけ、全国で耕地面積の水田化率が最も高い富山県農業と農村に対する打撃は図り知れないものがあります。水田稲作農業は、日本の自然環境を保全し、人間の助け合いの心を育み、豊かな日本文化を築いてきました。

この厳しくなる農業情勢の中で、豊かで健康な農村づくりの上で本会の役割は益々重要となってきたと思います。本誌に掲載されている様々な調査研究が少しでも役立てばと思います。

また、本誌では今まで交流を進めてきた中国河南省の先生方や上海からの協同研究の結果も報告され、国際交流も進んでいます。

今後、農村の役割は益々重要と考えられます。とりわけ高齢化社会を迎えるに当たり、お互に助け合う精神は、以前には農業の協同作業という形で自然に農村に息づいていました。この協同の精神を育てて来た農村が疲弊する事は、この精神が衰退することでもあります。

この農村の協同の心の復権が21世紀の高齢化社会を支える要とも言われています。平成6年度からは、越山会長が主任研究者を務められる「農村における老化とその対応」もこの点の解明に重点が置かれるものであり、その成果が大いに期待されるところです。

(事務局 E. O)

編 集 委 員 越山健二、長谷田祐作、渡辺正男、北川鉄人

富山県農村医学研究会誌 第25巻平成6年3月22日印刷・3月31日発行

富山市新総曲輪2番21号・富山県厚生連内 電話 富山(0764)45-2307

編集、発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 膳 亀 悠紀雄

印刷所 中央印刷株式会社 富山市下奥井町 電話(0764)32-6572
